南方遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 25 年 12 月 14 日（土）

岡山市教育委員会

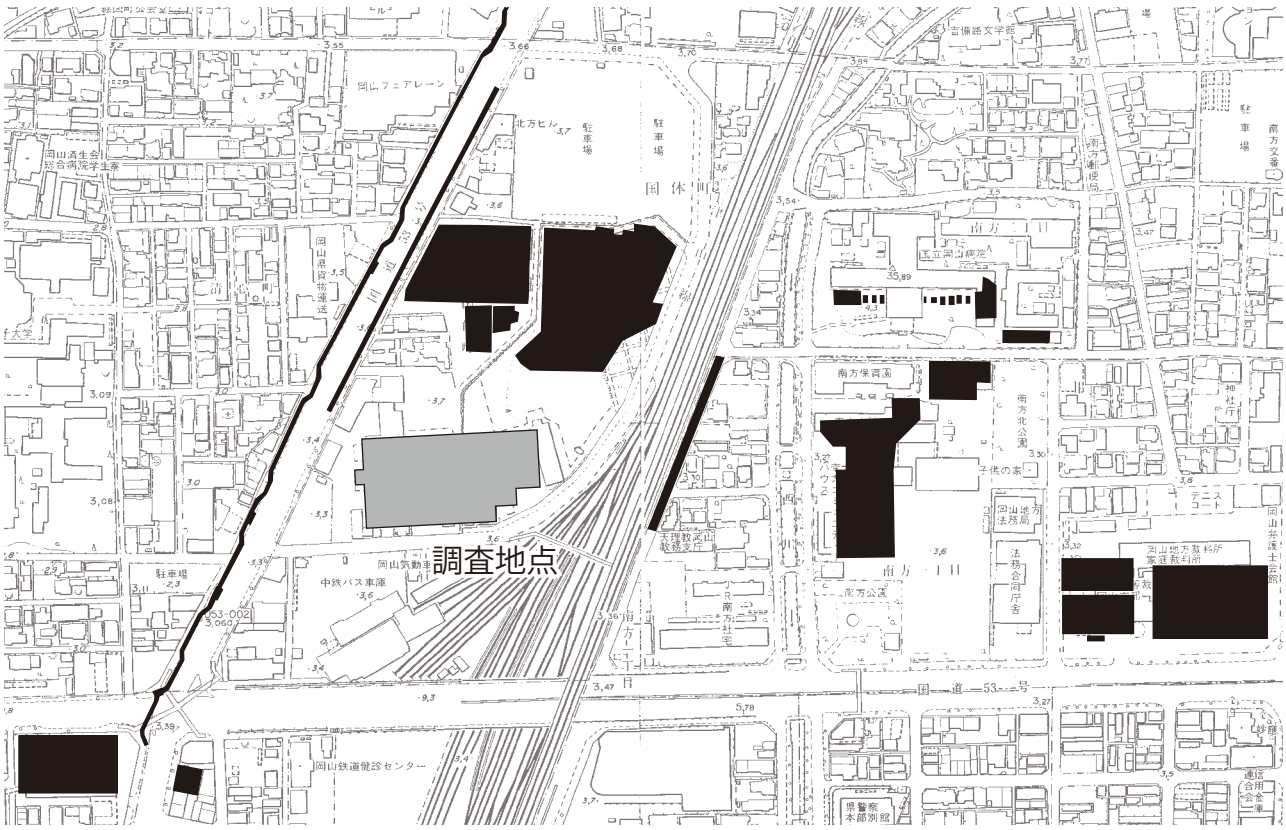
1 南方遺跡と昨年までの調査成果

南方遺跡は、現在の岡山駅の北側に位置し、約 1km 四方の範囲にわたる岡山県を代表する弥生時代中期の集落遺跡です。集落の存在する微高地では複数の地点で、過去に発掘調査が実施されており、弥生時代の人々の生活を考える上で貴重な資料を提供してくれます。今回、岡山済生会病院の新病棟建設に伴い継続して調査を行っていますが、昨年は国内で唯一例となる中国製の銅鏃（青銅の矢じり）が発見されるなど、南方遺跡が当時の弥生社会において重要な集落であったことがうかがえます。

2 主な遺構

調査の 2 年目にあたる本年度は、全体の調査区を 4 つに分けた内、昨年に調査した 1･2 区の東側にあたる 3･4 区と、2 区の残り部分を調査しました。これらの調査区は、後世（古墳時代後期以降）の河道によって一部微高地が削られていますが、弥生時代前期後半から中期半ばを中心とした遺構が多数検出されています。遺構の種類としては、竪穴住居、掘立柱建物、土坑（廃棄のための穴）、溝などがあり、特に住居に伴うとみられる柱穴が折り重なり合うようにみつかっています。これは数百年単位で人々が南方遺跡に居住し続けた結果といえ、遺構の密度は非常に高いものとなっています。

調査区ごとにみていくと、2 区の残りとなる北側の部分では、過去に弥生時代前期の環濠とされていた遺構の続きを確認しています。また、今回の調査ではじめてとなる数体分の人骨が出土しており、墓が営まれた場所でもありました。3・4 区では、竪穴住居や掘立柱建物の跡があり、中には直径が 7 ～ 8m となる比較的大きめの住居もみつかっています。それらの建物は弥生時代中期ごろのものと考えられ、周囲には生活の中で出たゴミを捨てるための穴や、排水用の溝が掘られていたりします。



南方遺跡（済生会病院３次）調査地点の位置（1/5,000）

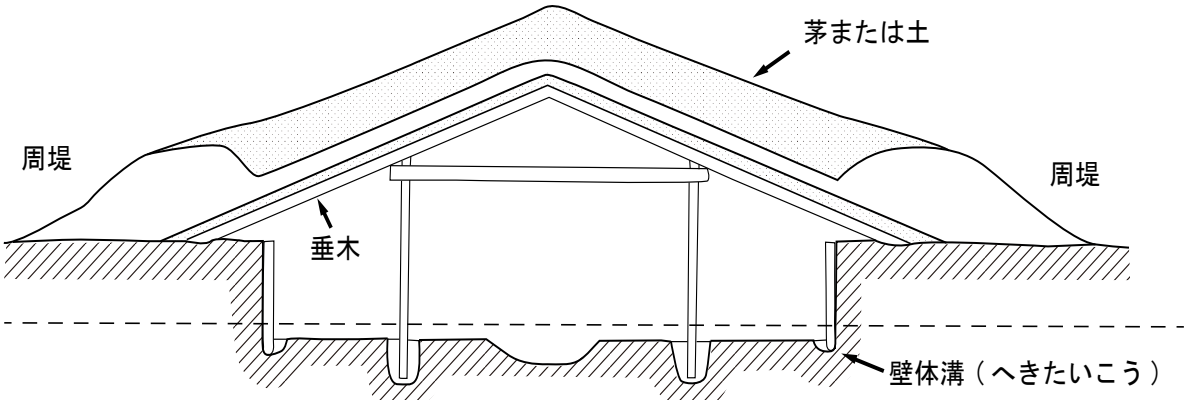
Y=-37920
Y=-37900
Y=-37880
Y=-37860
Y=-37840
Y=-37820
Y=-37800
Y=-37780
X=-147140
X=-147160
X=-147180
X=-147200
X=-147220
弥生前期の環濠
N

3 遺物に関して

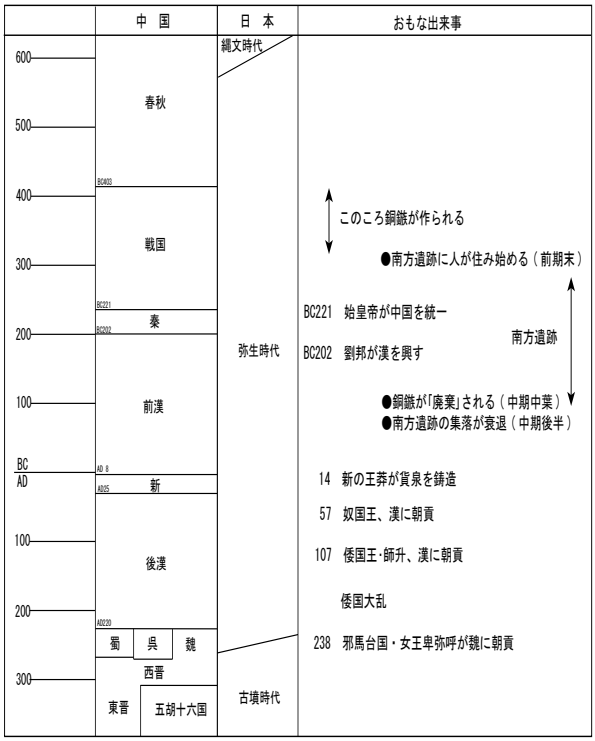
遺跡の中では土器、石器、木製品などの遺物が多量に出てきます。土器は、注目されるものとして九州系の土器が出土しており、遠隔地と交流があったことが分かります。石器では、南方遺跡で集落内における生産が考えられ、特に磨製石斧で太型蛤刃石斧（木材の伐採用）の出土が顕著です。木製品は、農具、建築部材、容器、琴、雑具（腰掛）など各種製品がそろっています。その他、装身具として碧玉製の管玉の出土がみられます。

4 まとめ

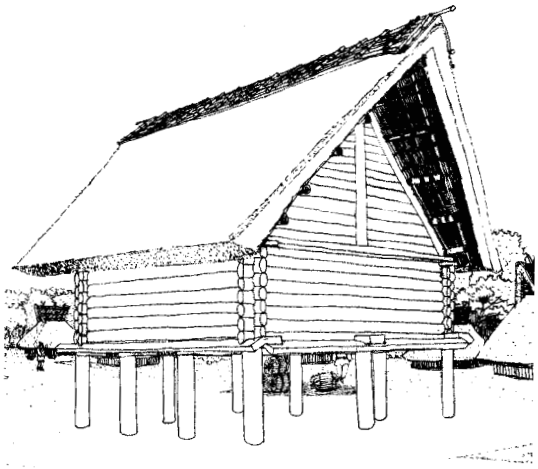
今回調査では、遺跡として集落の中心部の一部を発掘しましたが、遺構や遺物の内容と量から、南方遺跡は当時の中心的・拠点的な集落であったようです。また、視野を広げ、弥生時代中期の中部瀬戸内といった地域での位置づけを考えてみても、瀬戸内をはさんで東西南北の地域間の交流の結節点として、その役割を果たしていたことが推測されます。



竪穴住居断面模式図



関連年表



掘立柱建物
（高床倉庫の例）